



現代表現制作研究 I (ACF01)

通年

Contemporary Art Research I

大学院通信制 美術専攻

年次	1年
対象	22～20 CF
単位数	4.0単位
担当教員	 五十嵐英之  川上幸之介

授業の概要

五十嵐 英之 (油彩画/版画)

油彩画、版画の表現について古典技法を研究し、現代の表現との関連について考える。

油彩画、版画の新しい技法を研究し、自らの表現に必要な要素を調査する。

自己の作品制作をととして、油彩画、版画の技法についての応用的な手法を模索する。

川上 幸之介 (現代アート)

今まで培った技術、知性、感性を相互に関連させ、向上させることを目的とする。現在の作品の新しい展開を考察するために、現代表現制作研究 I では、グリーンバーグのモダニズムから、オクトーバー派のポストモダニズム、IIでは、哲学から芸術への影響を概観し、IIIでは、ポストモダン以降のグロイス、ビショップ、ランシエール等の論考に対して、基本事項の解説を加えながら熟読する。IVの歴史においてはコンセプチュアルアートを源流として現在までを学ぶ。構造については国際展を概観し、国際的な動向から学ぶ。これにより、現代アートと今日の社会を結ぶ要素を点検しながら、自身の作品をさまざまな角度から再検討する。

到達目標

五十嵐英之 (油彩画/版画)

油彩絵具のメディウム、顔料等についての使い方について歴史的変遷について学び、現代の表現に用いる事意味を理解する。

油彩画、版画の新技法について情報を収集し、実験をおこなう。

油彩画もしくは版画の技法を用いた作品を制作し、自らの表現における必然性について考える。

川上 幸之介 (現代アート)

現代アートが提起した問題を知るとともに、現代社会を見る一つの視座を芸術から獲得する。

評価方法

五十嵐 英之 (油彩画/版画)

レポート30%

実験資料30%

完成作品40%

川上 幸之介 (現代アート)

作品 50%

研究調査資料 50%

注意事項

五十嵐 英之 (油彩画/版画)

通信指導については、情報のやり取りを郵送、電話、Eメールなどを用いて行う。

スクーリングの際の提出作品は、大学に郵送するか当日持参する。

授業計画

五十嵐 英之 (油彩画/版画)

[スクーリング(1)第一日目]

1、研究計画についての検討

2、作品制作計画の立案

3、調査活動についての立案

[スクーリング(1)第二日目]

4. 制作指導 これまでの作品の分析
5. 制作指導 技法的側面における課題を探す。
6. 制作指導 油彩画、版画の作品例をとおして素材を知る。

[スクーリング(2)第一日目]

7. 技法研究 材料を用いて実験する。
8. 技法研究 新しい表現について模索する。
9. 技法研究 自らの作品へ応用的表現について考える。

[スクーリング(2)第三日目]

10. 制作 実験的な作品を制作する。
11. 制作 実験的な作品についてプレゼンテーションする。
12. 講評会 作品についてディスカッションする。

川上 幸之介（現代アート）

1. 調査研究についての検討（リフレクティブジャーナル、アーカイブ、スケッチブック）
2. 作品制作計画の立案
3. オブジェクトマターとサブジェクトマター
4. 制作指導 作品の分析
5. 制作指導 課題の検討
6. 制作指導 ディスカッション
7. 理論研究 モダニズムからポストモダニズ(1)
8. 理論研究 モダニズムからポストモダニズ(2)
9. 理論研究 モダニズムからポストモダニズ(3)
10. 制作 作品制作
11. 制作 プレゼンテーション
12. 講評会 ディスカッション

授業外学習

五十嵐 英之（油彩画／版画） 美術館や資料館などに出かけ、油彩画、版画の技法に関する情報を収集する。実作品を鑑賞し、その技法に関する資料を作成する。

教科書

五十嵐 英之（油彩画／版画）

- 『Live with Drawing 五感・授受』（KAファクトリー）
- 『Live with Drawing 描き合う事』（KAファクトリー）
- 『Live with Drawing 視点 精神分析』（KAファクトリー）

川上 幸之介（現代アート）

参考資料はプリントし、配布する。また、国際展や現代アートの解説の際には、プロジェクターやモニターを用いる。

参考書

五十嵐 英之（油彩画／版画）

参考資料は、ICT機器を用いて必要な場面で紹介する。

川上 幸之介（現代アート）

参考資料はプリントし、配布する。また、国際展や現代アートの解説の際には、プロジェクターやモニターを用いる。

備考

現代表現制作研究Ⅱ（ACF02）

通年

Contemporary Art Research Ⅱ

大学院通信制 美術専攻

年次	1年
対象	22～20 CF
単位数	4.0単位
担当教員	五十嵐英之 川上幸之介

授業の概要

五十嵐 英之（油彩画／版画）

自らの表現について分析するため、影響を受けた作家・作品について調査する。
表現に関連する人物、素材、出来事について調査し、資料を作成してプレゼンテーションを行う。
プレゼンテーション用のパネルを作成する。

川上 幸之介（現代アート）

技術、知性、感性を相互に関連させ、向上させることを目的とする。現在の作品の新しい展開を考察するために、現代表現制作研究Ⅰでは、グリーンバーグのモダニズムから、オクトーバー派のポストモダン、Ⅱでは、哲学から芸術への影響を概観し、Ⅲでは、ポストモダン以降のグロイス、ビショップ、ランシーエル等の論考に対して、基本事項の解説を加えながら熟読する。Ⅳの歴史においてはコンセプチュアルアートを源流として現在までを学ぶ。構造については国際展を概観し、国際的な動向から学ぶ。これにより、現代アートと今日の社会を結ぶ要素を点検しながら、自身の作品をさまざまな角度から再検討する。

到達目標

五十嵐 英之（油彩画／版画）

美術のコンテクストについて調査し、自らの作品に関連した資料を完成させる。
自らの表現について資料をもとに客観的に解説ができる。
学外での研究会や展覧会において、パネル展示で作品コンセプトが説明できるようになる。

川上 幸之介（現代アート）

現代アートが提起した問題を知るとともに、現代社会を見る一つの視座を芸術から獲得する。

評価方法

五十嵐 英之（油彩画／版画）

研究レポート「similar」60%
プレゼンテーション40%

川上 幸之介（現代アート）

作品 50%
研究調査資料 50%

注意事項

通信指導については、情報のやり取りを郵送、電話、Emailなどを用いて行う。
スクーリングの際に提出する作品や資料は、大学に郵送するか当日持参する。
【スクーリング(3)】は関連科目 修士論文報告書指導があり、本科目の授業は設定されていない。

授業計画

五十嵐 英之（油彩画／版画）

- 【スクーリング(1)第一日目】
- 後期研究計画の見直し 課題の説明
- 【スクーリング(2)第一日目】
- 調査報告 調査資料の紹介
 - 調査報告 調査した人物や素材、出来事について解説
 - 調査報告 資料をもとに設定された時間内で、プレゼンテーションを行う。

[スクーリング(4)第一日目]

- 5、プレゼンテーション パネルの製作について
- 6、プレゼンテーション 内容の検討
- 7、プレゼンテーション Figの選出・加工について
- 8、プレゼンテーション テキストについて
- 9、プレゼンテーション 効果について

[スクーリング(4)第二日目]

- 10、研究レポート 検討
- 11、研究レポート 提出
- 12、講評会

川上 幸之介（現代アート）

1. 後期研究計画、課題の説明
2. 調査報告
3. プレゼンテーション
4. ディスカッション
5. 「哲学から芸術へ」(1)
6. 「哲学から芸術へ」(2)
7. 「哲学から芸術へ」(3)
8. 「哲学から芸術へ」(4)
9. 「哲学から芸術へ」(5)
10. 研究レポート 検討
11. ディスカッション
12. 講評会

授業外学習

五十嵐 英之（油彩画／版画） 自らが影響を受けた作品を実際に鑑賞するため、美術館、ギャラリー等へ調査活動に出る。学会での研究報告会や美術館等での講演に出かけて、情報を収集する。

教科書

五十嵐 英之（油彩画／版画）

特になし

川上 幸之介（現代アート）

参考資料はプリントし、配布する。また、国際展や現代アートの解説の際には、プロジェクターやモニターを用いる。

参考書

五十嵐 英之（油彩画／版画）

その課題や各自の興味関心にあわせて、ICTを用いて紹介する。

川上 幸之介（現代アート）

参考資料はプリントし、配布する。また、国際展や現代アートの解説の際には、プロジェクターやモニターを用いる。

備考

現代表現制作研究Ⅲ（ACF03）

通年

Contemporary Art Research Ⅲ

大学院通信制 美術専攻

年次	2年
対象	21～19 CF
単位数	4.0単位
担当教員	五十嵐英之 川上幸之介

授業の概要

五十嵐 英之（油彩画／版画）

完成度の高い作品を完成させるため、油彩画技法、版画技法が効果的に用いられているか分析する。

1年次から2年次にかけて制作された作品のテーマなどについて、様々な角度から分析しさらに展開した作品を制作する。

学外での展覧会に向けて、加計美術館等の施設での展示を行い作品の見せ方について考える。

川上 幸之介（現代アート）

技術、知性、感性を相互に関連させ、向上させることを目的とする。現在の作品の新しい展開を考察するために、現代表現制作研究Ⅰでは、グリーンバーグのモダニズムから、オクトーバー派のポストモダニズム、Ⅱでは、哲学から芸術への影響を概観し、Ⅲでは、ポストモダン以降のグロイス、ピショップ、ランシエール等の論考に対して、基本事項の解説を加えながら熟読する。Ⅳの歴史においてはコンセプチュアルアートを源流として現在までを学ぶ。構造については国際展を概観し、国際的な動向から学ぶ。これにより、現代アートと今日の社会を結ぶ要素を点検しながら、自身の作品をさまざまな角度から再検討する。

到達目標

五十嵐 英之（油彩画／版画）

制作計画に基づき、決められたサイズ、点数の完成作品を提出する。

この時点の作品について、客観的に捉え今後の作品展開について考えられる。

自らの作品を観せることについて、様々な条件を満たし効果的な展示ができる。

川上 幸之介（現代アート）

現代アートが提起した問題を知るとともに、現代社会を見る一つの視座を芸術から獲得する。

評価方法

五十嵐 英之（油彩画／版画）

提出作品60%

展示に関する課題40%

川上 幸之介（現代アート）

作品 50%

研究調査資料 50%

注意事項

通信指導については、情報のやり取りを郵送、電話、Emailなどを用いて行う。

スクーリングの際に提出する作品や資料は、大学に郵送するか当日持参する。

【スクーリング(3)】は関連科目 修士論文報告書指導があり、本科目の授業は設定されていない。

授業計画

五十嵐 英之（油彩画／版画）

【スクーリング(1)第一日目】

1、研究計画についての検討

2、作品制作計画の立案

3、制作活動についての立案

【スクーリング(1)第二日目】

4、完成作品I 分析

- 5、完成作品I 今後の展望
- 6、完成作品I 展示計画
[スクーリング(2)第一日目]
- 7、完成作品II 作品プレゼンテーション
- 8、完成作品II 作品講評
- 9、完成作品II 作品運搬
[スクーリング(2)第三日目]
- 10、学外展示活動
- 11、学外展示活動
- 12、講評会

川上 幸之介（現代アート）

1. 調査研究についての検討（リフレクティブジャーナル、アーカイブ、スケッチブック）
2. 作品制作計画の立案
3. オブジェクトマターとサブジェクトマター
4. 制作指導 作品の分析
5. 制作指導 課題の検討
6. 制作指導 ディスカッション
7. 理論研究 ポストモダニズム以降(1)
8. 理論研究 ポストモダニズム以降(2)
9. 理論研究 ポストモダニズム以降(3)
10. 制作 作品制作
11. 制作 プレゼンテーション
12. 講評会 ディスカッション

授業外学習

五十嵐 英之（油彩画／版画） 学外で展示する空間について、様々な展示スペースに出かけ調査する。

教科書

五十嵐 英之（油彩画／版画）

- 『Live with Drawing 五感・授受』（KAファクトリー）
- 『Live with Drawing 描き合う事』（KAファクトリー）
- 『Live with Drawing 視点 精神分析』（KAファクトリー）

川上 幸之介（現代アート）

参考資料はプリントし、配布する。また、国際展や現代アートの解説の際には、プロジェクターやモニターを用いる。

参考書

五十嵐 英之（油彩画／版画）

その課題や各自の興味関心にあわせて、パワーポイントなどで紹介する。

川上 幸之介（現代アート）

参考資料はプリントし、配布する。また、国際展や現代アートの解説の際には、プロジェクターやモニターを用いる。

備考

現代表現制作研究Ⅳ（ACF04）

通年

Contemporary Art Research Ⅳ

大学院通信制 美術専攻

年次	2年
対象	21～19 CF
単位数	4.0単位
担当教員	五十嵐英之 川上幸之介

授業の概要

五十嵐 英之（油彩画／版画）

完成作品をもとに100号以上、もしくはそれに相当するスケールの作品を完成させる。

修士論文報告書等との関連を持たせながら、プレゼンテーションを行う。

作品に関するディスカッションを重ね、作品の完成度を高める。

川上 幸之介（現代アート）

参考資料はプリントし、配布する。また、国際展や現代アートの解説の際には、プロジェクターやモニターを用いる。

到達目標

五十嵐 英之（油彩画／版画）

現代表現制作研究Ⅱで制作した作品からの新たな展開があること。

修士論文報告書等これまで研究してきたこととの関連性について掌握できること。

自らの作品について様々な角度から解説ができ、作品についてのディスカッションより新たな気付きがあること。

川上 幸之介（現代アート）

現代アートが提起した問題を知るとともに、現代社会を見る一つの視座を芸術から獲得する。

評価方法

五十嵐 英之（油彩画／版画）

提出作品80%

プレゼンテーション20%

注意事項

【スクーリング(3)】は関連科目 修士論文報告書指導があり、本科目の授業は設定されていない。

授業計画

五十嵐 英之（油彩画／版画）

【スクーリング(1)第一日目】

1、修了に向けて研究計画の見直し

【スクーリング(2)第一日目】

2、完成作品1について プレゼンテーション

3、完成作品1について 分析

4、完成作品1について 講評会

【スクーリング(4)第一日目】

5、完成作品2について 展示

6、完成作品2について プレゼンテーション

7、完成作品2について 修士論文報告書等との整合性について

8、完成作品2について 修士論文報告書等との整合性について

9、完成作品2について ディスカッション

【スクーリング(4)第二日目】

10、完成作品2 プレゼンテーション資料作成

11、完成作品2 プレゼンテーション資料作成

12、講評会

川上 幸之介（現代アート）

1. 後期研究計画、課題の説明
2. 調査報告
3. プレゼンテーション
4. ディスカッション
5. 「現代アートの歴史」(1)
6. 「現代アートの歴史」(2)
7. 「現代アートの歴史」(3)
8. 「国際展」(4)
9. 「国際展」(5)
10. 研究レポート 検討
11. ディスカッション
12. 講評会

授業外学習

五十嵐 英之（油彩画／版画） 修士論文報告書等と作品との整合性について確認する。図書館や美術館などで、自らの表現に関する資料を収集する。美術館や画廊などにでかけ、現代の表現について幅広く情報を収集する。

川上 幸之介（現代アート） ・授業計画に示したテーマについて議論することになるので、履修者はそれらのテキストへの主体的取り組みが求められる。 ・授業で示されたキュレーターがキュレーションをした国際展を中心として調査、研究をすること。

教科書

五十嵐 英之（油彩画／版画）

『中西夏之×五十嵐英之 遠くの画布 近くの絵』

川上 幸之介（現代アート）

参考資料はプリントし、配布する。また、国際展や現代アートの解説の際には、プロジェクターやモニターを用いる。

参考書

五十嵐 英之（油彩画／版画）

その課題や各自の興味・関心にあわせて、パワーポイントなどで紹介する。

川上 幸之介（現代アート）

参考資料はプリントし、配布する。また、国際展や現代アートの解説の際には、プロジェクターやモニターを用いる。

備考

油画制作研究 I (ACF05)

通年

Oil Painting Research I

大学院通信制 美術専攻

年次	1年
対象	22～20 CF
単位数	4.0単位
担当教員	近藤千晶

授業の概要

現在まで取り組んできた制作のコンセプトや表現方法を改めて検証し、今後の方向性や可能性を再考する。見い出された問題点について展開や深化の方法を探り、自ら課題を設定し、修士課程での研究計画書を作成する。作成した計画書に基づき制作研究を展開する。

【アクティブラーニング】ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】次作に向けて作品に対する講評や省察などの指導を行っている。

到達目標

- ①コンセプトや表現方法などオリジナリティーある作品制作を追求することができる。
- ②時代性、普遍性の両面から、また現代美術の抱えている諸問題と照らし合わせながら、客観的に自作を捉えることができる。
- ③制作の裏付けを繰り返し探りながら、制作研究を展開して行くことができる。

評価方法

作品に関する評価（①）50%、研究発表（個展及び展覧会やコンクールへの出品）の状況30%、授業に取り組む姿勢（②③レポート、プレゼンテーション、合評会などで評価）20%

注意事項

必要に応じて個別の課題を出す場合がある。

授業計画

4月オリエンテーションにて研究計画に関するミーティング

作品資料（作品またはポートフォリオ）など持参

5月スクーリング

研究課題に関するドローイング、エスキース 合評会

7月 作品制作・提出。メールなどで相談、助言指導などを行う。

9月スクーリング

完成作品プレゼンテーション、合評会

11月スクーリング

前期制作作品の反省を踏まえて次の展開を模索

ドローイング、エスキース

1月スクーリング

作品制作 助言指導などを行う。

授業外学習

個展の開催、展覧会やコンクールへの作品出品など積極的に学外発表を行う。
美術館や展覧会鑑賞などを行いレポートを作成する。

教科書

特に使用しない。

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

油画制作研究Ⅱ (ACF06)

通年

Oil Painting Research II

大学院通信制 美術専攻

年次	1年
対象	22～20 CF
単位数	4.0単位
担当教員	近藤千晶

授業の概要

今後の方向性や可能性も模索する上で有効と思われる作家を選び、研究、レポートを作成する。

【アクティブラーニング】ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】研究レポートに対する講評や省察などの指導を行っている。

到達目標

①作家の制作におけるコンセプトや表現における特徴、作品の背景にある時代性、普遍性などを探究し、論述することができる。

②自身の作品のオリジナリティを模索しながらも、時代性、普遍性と言った現代美術の抱えている諸問題と照らし合わせ、制作の裏付けを繰り返し探りながら研究を展開し発表することができる。

評価方法

研究レポートに関する内容 (①) 評価50% 研究レポートのプレゼンテーション (②) 30% 受講状況20%

注意事項

必要に応じて個別の課題を出す場合がある。

授業計画

4月オリエンテーションにて研究計画に関するミーティング

研究テーマの決定、作家、作品の選定

5月スクーリング

研究課題に関して考察経過、内容の報告

7月 研究レポート作成。メールなどで相談、助言指導などを行う。

9月スクーリング

研究レポート提出

プレゼンテーション、講評

11月スクーリング

前期研究から次の展開を模索

研究テーマの決定、作家、作品の選定

1月スクーリング

研究課題に関して考察内容の報告、経過報告

2月研究レポート提出

プレゼンテーション、講評

授業外学習

研究対象の作家の展覧会などを鑑賞して、さらに踏み込んだレポート提出を求める場合がある。

教科書

特に使用しない。

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

油画制作研究Ⅲ (ACF07)

通年

Oil Painting Research Ⅲ

大学院通信制 美術専攻

年次	2年
対象	21～19 CF
単位数	4.0単位
担当教員	近藤千晶

授業の概要

西洋画制作研究Iで作成した研究計画書に沿って、制作の展開や深化を追求するが、制作の多角性や柔軟性にも目を向け、さらなる幅を持った制作研究を展開する。

修了作品に向けて制作の探求。

【アクティブラーニング】ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】次作に向けて作品に対する講評や省察などの指導を行っている。

到達目標

①作品の内容に加え、合評会やギャラリートークなどにおいて、自作について他者に向けて魅力的且つ論理的な説得力のあるプレゼンテーションを行うことが出来る。

②個展の展覧会の開催やコンクール出品など、作品をどのように発表して行くのか、どのように社会に向けて発信し他者とコミットして行くかを追求し、実行することができる。

③修士課程での集大成として、今後の作家活動につながる修了作品を完成させることができる。

評価方法

修了作品を中心とした作品制作、及び授業内でのプレゼンテーションに関する評価（①③）70%

学内外での研究発表（個展及び展覧会やコンクールへの出品）の状況に関する評価（②）30%

注意事項

展覧会や美術館の鑑賞などを行う場合がある。

授業計画

5月スクーリング

年間スケジュール、また修了制作の内容や、修了制作までの作品制作計画に関する相談

7月

作品制作経過報告、メールなどによる指導

9月

作品制作プレゼンテーション

修了制作エスキースに関する指導

11月

修了制作中間プレゼンテーション、講評

1月

修了制作プレゼンテーション、講評

修了制作展

（個展開催、展覧会出品などに関してはその都度、助言、指導を行う）

授業外学習

個展、展覧会やコンクール出品など、積極的に作品の発表を行う。

教科書

特に使用しない。

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

油画制作研究Ⅳ（ACF08）

通年

Oil Painting Research Ⅳ

大学院通信制 美術専攻

年次	2年
対象	21～19 CF
単位数	4.0単位
担当教員	近藤千晶

授業の概要

西洋画制作研究Ⅰで作成した研究計画書に沿って、制作の展開や深化を追求するが、制作の多角性や柔軟性にも目を向け、さらなる幅を持った制作研究を展開する。

修了作品に向けて制作の探求。

【アクティブラーニング】ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】次作に向けて作品に対する講評や省察などの指導を行っている。

到達目標

- ①制作の多角性や柔軟性に向けて、技法研究など新たな展開を加えた作品制作を試みることができる。
- ②作品の内容に加え、ディスカッションや合評会を通じて、自らの作品について語り、他者に向けて魅力的、論理的で説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。
- ③修士課程での集大成として、今後の作家活動につながる修了作品の完成を目指す。

評価方法

作品の内容や完成度に関する評価（①、③）70%

レポート、プレゼンテーションなどをもとにした活動状況に関する評価（②）30%

注意事項

有効と考えられる場合は、模写制作などを行う。

授業計画

5月スクーリング

制作研究の計画、方法のに関する相談

7月

制作研究中間報告、助言指導

9月スクーリング

研究レポートや作品のプレゼンテーション、講評

11月スクーリング

研究の展開に関する相談

1月スクーリング

研究レポートや作品のプレゼンテーション、講評

2月

研究レポート、作品の提出

授業外学習

自作のコンセプトの文章化、社会に向けた発信や他者とのコミットに関する方法論に関するレポートの提出（授業内で発表）

教科書

特に使用しない。

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

日本画制作研究 I (ACF09)

通年

Japanese-style Painting Research I

大学院通信制 美術専攻

年次	1年
対象	22～20 CF
単位数	4.0単位
担当教員	森山知己

授業の概要

古典技法を研究することで、今日的な表現手法における日本画の持つ可能性を確認し、同時に実際の制作を通じて新たな独自表現を模索する。

自らの制作を深め展開していく上で必要とされる課題克服を、実施可能な研究計画として作成し、それを基に制作を展開する。

到達目標

日本画の表現における材料・その使用の歴史の変遷を学び、現代の表現においてそれらを使用する意味を確認理解し制作できる。

日本画の伝統と呼ばれる存在を検証する作業を通じて、現代美術表現としての日本画について考える事ができる。

評価方法

完成作品 50%

研究発表（個展、展覧会出品、コンクール出品など）、研究資料作成（調査研究）など 30%

レポート 20%

注意事項

通信指導については、情報のやり取りを郵送、電話、Eメールなどを用いて行う。

スクーリングの際の提出作品は、大学に郵送するか当日持参する。

必要に応じて個別の課題を出す場合がある。

授業計画

- 4月 オリエンテーション・研究計画についての検討
制作・研究計画の立案
※作品資料（作品またはポートフォリオ）の持参
- 5月 古典研究（模写・描画技術調査など）・制作指導
研究課題に関する進行確認
- 7月 制作作品提出 相談・助言指導を行う
- 9月 古典研究（模写・描画技術など）・制作指導
完成作品 講評会
- 11月 制作指導
前期制作作品の反省を踏まえた後期制作の展開について検討
- 1月 作品制作 指導
- 2月 完成作品プレゼンテーション 講評会

授業外学習

美術館・展覧会鑑賞を通じて様式、材料・技法に関する調査・確認を行う。

作品鑑賞し、その技法に関する資料を作成する。

教科書

特に使用しない。

参考書

参考文献は課題、各自の興味関心に合わせて適宜紹介する。

備考

日本画制作研究Ⅱ（ACF10）

通年

Japanese-style Painting Research II

大学院通信制 美術専攻

年次	1年
対象	22～20 CF
単位数	4.0単位
担当教員	森山知己

授業の概要

自らの表現について分析するため、影響を受けた作家・作品について調査する。
表現に関連する人物、素材、出来事について調査し、資料を作成してプレゼンテーションを行う。

到達目標

「日本画」の定義について調査し、自らの作品に関連した資料を作る。
自らの表現について、作成した資料をもとに客観的に解説ができる。
学外での研究会や展覧会において、作品コンセプトが説明できるようになる。

評価方法

研究レポート60%
プレゼンテーション40%

注意事項

通信指導については、情報のやり取りを郵送、電話、Emailなどを用いて行う。
スクーリングの際に提出する作品や資料は、大学に郵送するか当日持参する。

授業計画

- [スクーリング(1)第一日目]
- 1、後期研究計画の見直し 課題の説明
- [スクーリング(2)第一日目]
- 2、調査報告 調査資料の紹介
 - 3、調査報告 調査した人物や素材、出来事について解説
 - 4、調査報告 資料をもとに設定された時間内で、プレゼンテーションを行う。
- [スクーリング(3)第二日目]
- 5、プレゼンテーション 資料について
 - 6、プレゼンテーション 内容の検討
 - 7、プレゼンテーション 画像資料準備・作成
 - 8、プレゼンテーション テキストについて
 - 9、プレゼンテーション 効果・まとめについて
- [スクーリング(4)第二日目]
- 10、研究レポート 検討
 - 11、研究レポート 提出
 - 12、講評会

授業外学習

自らが影響を受けた作品を実際に鑑賞するため、美術館、ギャラリー等へ調査活動に出る。
学会での研究報告会や美術館等での講演に出かけて、情報を収集する。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は課題、各自の興味関心に合わせて適宜紹介する

備考

日本画制作研究Ⅲ（ACF11）

通年

Japanese-style Painting Research Ⅲ

大学院通信制 美術専攻

年次	2年
対象	21～19 CF
単位数	4.0単位
担当教員	森山知己

授業の概要

日本画制作研究Iで作成した研究計画に基づき制作の展開やさらなる進化を追求し、加えて視野を広げることで客観的な分析を自らに加え制作の広がり、思考の柔軟性にも配慮し探求する。

到達目標

「日本画」で用いられる和紙、絹などの支持体の変遷、絵の具の歴史的変遷における変化を学び、現代において自身の表現に用いる意味を把握、理解する。

「日本画」についての新しい定義、提案について自ら情報を収集し、構築できる。
調査した技法を用いた作品を実際に制作し、自らの表現にできる。

評価方法

レポート30%

実験資料30%

完成作品40%

注意事項

通信指導については、情報のやり取りを郵送、電話、Eメールなどを用いて行う。

スクーリングの際の提出作品は、大学に郵送するか当日持参する。

【スクーリング(3)】は関連科目と#160;修士論文報告書指導があり、本科目の授業は設定されていない。

授業計画

【スクーリング(1)第一日目】

- 1、研究計画についての検討
- 2、作品制作計画の立案
- 3、調査活動についての立案

【スクーリング(1)第二日目】

- 4、制作指導 これまでの作品の分析
- 5、制作指導 技法的側面における課題を探る。
- 6、制作指導 日本画の作品例をとおして素材を知る。

【スクーリング(2)第一日目】

- 7、技法研究 材料を用いて実験する。
- 8、技法研究 新しい表現について模索する。
- 9、技法研究 自らの作品へ応用的表現について考える。

【スクーリング(2)第三日目】

- 10、制作 実験的な作品を制作する。

授業外学習

美術館や資料館などに出かけ、日本画の技法に関する情報を収集する。

実作品を鑑賞し、その技法に関する資料を作成する。

教科書

特になし

参考書

必要に応じて紹介する

備考

日本画制作研究Ⅳ（ACF12）

通年

Japanese-style Painting Research IV

大学院通信制 美術専攻

年次	2年
対象	21～19 CF
単位数	4.0単位
担当教員	森山知己

授業の概要

日本画制作研究Ⅱで設定した研究テーマの再検討を行い、より自らの表現に客観的な視点を取り入れられるように影響を受けた作家・作品について調査を進める。

調査した作品の中に「日本画」の理解について客観性を持ちうる具体的な要素となるものを抽出し、「日本画」について説明を試みることを通じて「日本画」に関する深い理解を得る。

自身の制作作品の「日本画」との関係性についてのプレゼンテーションを行う。

到達目標

自身の制作（活動）を「日本画」との関係性に基づいて他者に紹介できる。

歴史的な材料選択の変遷や技法の変化、今日の現状などについても考慮し、「日本画」の未来における可能性の発見を行い制作できる。

評価方法

研究レポート60%

プレゼンテーション40%

注意事項

通信指導については、情報のやり取りを郵送、電話、Emailなどを用いて行う。

スクーリングの際に提出する作品や資料は、大学に郵送するか当日持参する。

〔スクーリング(3)〕は関連科目 修士論文報告書指導があり、本科目の授業は設定されていない。

授業計画

〔スクーリング(1)第一日目〕

1、研究計画の見直し 課題の説明

〔スクーリング(2)第一日目〕

2、調査報告 調査資料の紹介

3、調査報告 調査した人物や素材、出来事について解説

4、調査報告 資料をもとに設定された時間内で、プレゼンテーションを行う。

〔スクーリング(4)第一日目〕

5、プレゼンテーション パネルの製作について

6、プレゼンテーション 内容の検討

7、プレゼンテーション 画像用意・加工について

8、プレゼンテーション テキストについて

9、プレゼンテーション 効果について

〔スクーリング(4)第二日目〕

10、研究レポート 検討

11、研究レポート 提出

12、講評会

授業外学習

自らが影響を受けた作品を実際に鑑賞するため、美術館、ギャラリー等へ調査活動に出る。

学会での研究報告会や美術館等での講演に出かけて、情報を収集する。

教科書

特になし

参考書

課題や各自の興味関心にあわせて随時紹介する。

備考

現代芸術論 (ACF13)

前期

Contemporary Art Theory

大学院通信制 美術専攻

年次	1年
対象	22～19 CF
単位数	2.0単位
担当教員	松岡智子

授業の概要

現代芸術の概観をジャンルごとに分けて考察していく。はじめに絵画を出発点にしなが、写真・映像へといった「イメージ」表現の系譜をたどる。さらにその対極にある「物質」へのこだわりを示す流れを身体表現を出発点にして彫刻・工芸的思考を考えていく。さらに建築から都市にまで展開させていくことでデザインの可能性と限界についても考えたい。21世紀にはいまだ気づかないニューメディアが救世主として生まれようとしているだろうか。それは都市の崩壊をくい止め、文明を立て直すものとなるだろうか。絵画からはじまり都市に至るまでの現代芸術の様相を検討する。

到達目標

・映像が優先する今日の芸術を築き上げてきた歴史を学び、さまざまな芸術領域を横断して、21世紀の動向を模索できる。

評価方法

毎週の課題 70% (授業計画の2から14までの各項目の概要をそれぞれ400字程度にまとめ、それに対応する作品を10点ずつあげて簡単な解説をつける)

最終レポート 30% (「21世紀の現代芸術」と題した1000字程度のまとめ)

注意事項

参考資料については個別に通信する。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション 授業概要の理解
第2回	造形芸術の理念
第3回	絵画からの出発
第4回	純粹をめざす絵画
第5回	平面とイリュージョン
第6回	写真の芸術性
第7回	映像表現の可能性・・・ここまですべてをまとめて第1回レポート提出
第8回	ダンス・パフォーマンス
第9回	彫刻の実験
第10回	デザインの思想
第11回	工芸論・・・ここまですべてをまとめて第2回レポート提出
第12回	素材への執着
第13回	現代建築の冒険
第14回	都市と環境デザイン・・・ここまですべてをまとめて第3回レポート提出
第15回	まとめ 最終レポートの提出

授業外学習

通信制なので自宅での学習については以下の通り

- ・学習は指定された教科書にそって毎週1章ずつ進める。
- ・具体的な作品については各地の美術館で行われる展覧会を鑑賞するようにつとめる。

教科書

特になし

参考書

進行に合わせて別途紹介する。

備考

年次	1年
対象	22～19CF
単位数	2.0単位
担当教員	松岡智子

授業の概要

フランスは19-20世紀半ばまで西洋における芸術運動の中心的な存在であり、印象派後も世紀末アカデミズム、新印象派、ポスト印象派、ナビ派、象徴主義、素朴派、野獣派、立体主義、ピュリスム、ダダイスム、シュルレアリスム、アンフォルメル等といった新運動の発信地となり、多くの外国人芸術家たちを引き寄せたことはよく知られている。わが国においても明治以降、フランスに留学した日本の芸術家達や雑誌、単行書、画集などの出版物、西洋美術のコレクションの形成等を通じて、フランス近代美術が我が国に次々と紹介され大きな影響を受け、現在でも美術館で開催されるフランス美術、とりわけ印象派、ポスト印象派をテーマとした展覧会には多くの来館者が訪れている。

日本美術史特論では日本人作家による絵画、彫刻、工芸、建築、デザイン、写真など様々な領域を通して、彼らがフランスの美術をいかに受容し新たな芸術を創造したかについて、社会的背景も視野に入れながら個々の作家やその作品及び芸術運動を概観するものである。

到達目標

- 19-20世紀における日本美術について、フランス芸術の「受容」の側面から理解し説明できる。
- これまでの美術史学における受動的な「受容論」、「受容研究」にとどまらず、従来の「影響論」ではない新たな創造行為に重心をおいたポジティブな「受容研究」の立場から、日本の美術について論述できる。そのために日仏の歴史的な背景や政治及び文化の力学についても関係づけられる。

評価方法

「日本美術史特論」のレポートの課題：19-20世紀半ばの日本においてフランス美術の影響を強く受けた作家や芸術運動を選び、その「創造的受容」について論述した4000字程度でレポート70%(到達目標2を評価)。その際、以下にあげた文献を参考にするとともに、関連する作品を必ず美術館等で見て研究し、スクーリングでのレポートの内容に基づいたプレゼンテーション30%(到達目標1を評価)により成績を評価し、総合計60点以上を合格点とする。

注意事項

- レポート作成においては、様々な文献にあたり、作成上の基本的ルールを守り、特に引用した部分は明示しておくこと。
- レポートの提出期限を厳守すること。
- 履修が決まり次第、TAに電子メールで連絡すること。連絡が入り次第、折り返し課題のレポートの詳細について連絡する。
- 専門分野についての質問やレポートの作成など不明な点があれば、電子メールにて質問し、早急に問題点を解決すること。

授業計画

受容美学とは

高橋由一の時代

日本近代洋画にフランス絵画がもたらしたもの(1) アングル、ドラクロワ、ミレー、クールベの場合

日本近代洋画にフランス絵画がもたらしたもの(2) 印象派の受容

日本近代洋画にフランス絵画がもたらしたもの(3) モリゾ、スーラ、ドニ、ピカソの場合

日本におけるアール・ヌーヴォー、アール・デコ

日本におけるマン・レイ

「美術館」の夢—大原孫三郎と松方幸次郎

国画創作協会の画家たちとフランス近代絵画

藤田嗣治について

岡鹿之助について

須田国太郎について

パリの薩摩次郎八、福島繁太郎

「前衛」の到来

まとめ

授業外学習

- ・自学自習が基本であることを十分認識し、提示している教科書や参考文献を積極的に読むこと。
 - ・専門分野の最新の情報を学術雑誌や展覧会図録等から収集するとともに、複数の美術館で多くの作品を見ることに努めること。
-

教科書

辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会、2012年、4-13-082086-8

参考書

兵庫県立美術館編『美術館の夢 松方・大原・山村コレクションでたどる』兵庫県立美術館、2002年、柴田三千雄、樺山紘一、福井憲彦編『世界歴史体系 フランス史3－19世紀なかば～現在－』山川出版社、2006年、宮崎克己『西洋絵画の到来 日本人を魅了したモネ、ルノワール、セザンヌなど』日本経済新聞出版社、2007年、永井隆則編『フランス近代美術史の現在 ニュー・アート・ヒストリー以後の視座から』三元社、2007年、『美術フォーラム21(特集：日本におけるフランスー創造的受容)』(vol.23)、2011年、山室

備考

年次	1年
対象	22～19 CF
単位数	2.0単位
担当教員	松岡智子

授業の概要

「ニューアート・ヒストリー以後の視座からフランス近代美術史研究の現状を位置づける」
1960年代頃から登場し、戦前までの古典的美術史学を乗り越えようとした、ニュー・アート・ヒストリー運動が叫ばれて久しい。この授業ではフランス近代美術史をポスト・モダニズム、構造主義の出現からポスト構造主義への移行とその後という思想文脈に位置づけた研究成果を紹介するものである。

到達目標

・フランス近代美術史についての、ニュー・アート・ヒストリー以後から今日に至るまでの多様化した方法論上のパースペクティヴを学び、それらについて説明できる。

評価方法

毎週の課題 60% (授業計画の13項目の概要をそれぞれ400字程度にまとめ、簡単な解説をつける)
最終レポート 40% (フランス近代美術史論についての4000字程度のレポートおよび美術展見学についての1200字程度のレポート)

注意事項

毎回学習する参考資料については別途提供する。

授業計画

オリエンテーション

1. 政治と芸術：クールベ《石割》の軌跡1
 2. 政治と芸術：クールベ《石割》の軌跡2
 3. 西洋絵画の脱構築：マネの切断1
 4. 西洋絵画の脱構築：マネの切断2
 5. 女性観と女性像の形成をめぐる：ドガのフェミニズム1
 6. 女性観と女性像の形成をめぐる：ドガのフェミニズム2
 7. 精神分析美術史を越えて：セザンヌの素描と身体1
 8. 精神分析美術史を越えて：セザンヌの素描と身体2
 9. モチーフ・「瞬間性」・個展：モネ《積みわら》連作の再考
 10. 神話の解体と展望：ロダン
 11. ゴッガンクのプリミティヴィズム再考
 12. 批判的考察1：マティス研究の現在から
 13. 批判的考察2：マティス研究の現在から
- まとめ 最終レポートの提出

授業外学習

通信制なので自宅での学習については以下の通り。

- ・授業計画の13の項目に沿って毎週学習をすすめる。
- ・授業に関連した美術展を積極的に見学すること。

教科書

永井隆則編『フランス近代美術史の現在』三元社、2007年 ISBN978-4-88303-204-4

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	1年
対象	22～19 CF
単位数	2.0単位
担当教員	松岡智子

授業の概要

日本美術の誕生・創出を「ことば」から探る。

到達目標

1. 日本近代美術の特質を「ことば」の概念を分析することにより理解し説明できる。
2. 日本美術史を代表する作品と参考文献に基づき、適切な理論的枠組みを用いて論述することができる。

評価方法

レポート70%(到達目標2を評価)、スクーリングでのプレゼンテーション30%(到達目標1を評価)により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・レポート作成においては、様々な文献にあたり、作成上の基本的ルールを守り、特に引用した部分は明示しておくこと。
- ・レポートの提出期限を厳守すること。
- ・履修が決まり次第、TAに電子メールで連絡すること。連絡が入り次第、折り返し課題のレポートの詳細について連絡する。
- ・専門分野についての質問やレポートの作成など不明な点があれば、電子メールにて質問し、早急に問題点を解決すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	「近代日本美術」とはなにかー日本を考える
第3回	「近代日本美術」とはなにかー「日本美術」「日本美術史」
第4回	「近代日本美術」とはなにかー「近代」の範囲と意味
第5回	美術の文法ー「絵画」の成立
第6回	美術の文法ー「彫刻」か「彫塑」か
第7回	美術の文法ー「工芸」という概念
第8回	ジャンルの形成ー「日本画」/「西洋画」
第9回	ジャンルの形成ー「歴史画」
第10回	ジャンルの形成ー「近代美術」/「現代美術」
第11回	美術の環境ー階層
第12回	美術の環境ー行政・団体
第13回	美術の環境ーコレクション
第14回	「日本美術史」の創出
第15回	まとめ

授業外学習

テーマに即した展覧会を見学する。

教科書

使用せず。

参考書

適宜紹介する。

備考

修了作品制作研究 (ACF17)

通年

Master Degree Research

大学院通信制 美術専攻

年次	1年
対象	22～19 CF
単位数	10.0単位
担当教員	<ul style="list-style-type: none">五十嵐英之磯谷晴弘近藤千晶田丸稔森山知己川上幸之介

授業の概要

五十嵐 英之 (油彩画/版画)

修了制作のために研究してきた内容を振り返り、素材や技法、表現について分析しながら制作活動を展開する。

川上 幸之介 (現代アート)

卒業制作展へ向けて作品のもつ言説と思想の基盤を鍛える。作品によって世界における様々な諸問題を浮き彫りにすると同時に、その淵源を考察する。

森山 知己 (日本画)

日本画制作研究で作成した研究計画に基づき制作の展開やさらなる進化を追求し、加えて視野を広げることで客観的な分析を自らに加え、制作の広がり、思考の柔軟性にも配慮し探求する。

田丸 稔 (彫刻)

量塊性と構築性に根ざした彫刻表現を踏まえた上で、自己の存在の過程を強調する表現とは何かを考察、追求し、彫刻として制作研究を試みる。すなわち内触覚性に根ざした彫刻表現の確立を目指す。

近藤 千晶 (絵画)

西洋画制作研究で模索してきたコンセプトや表現方法を客観的に分析し、さらに展開、発展させ、今後の作家活動を念頭に自らの絵画表現の確立を目指す。

磯谷 晴弘 (ガラス)

工芸制作研究で研究、模索、展開してきたテーマのうちから、追求に耐え得るものを考察し選び出し、自己表現の確立を目指す。

到達目標

五十嵐 英之 (油彩画/版画)

修了制作作品展に出品できる作品を完成させる。

修了制作作品として、油彩画/版画等の技法が自らの表現に相応しいものであるかどうか、分析を行う。

修了制作作品に関する資料を作成し、研究報告書を作成する。

川上 幸之介 (現代アート)

これまでの展開の跡付けと現在までの到達点を明らかにし、芸術の歴史の延長に自己の作品を認識し、その認識を自分の言葉で語り、政治や経済や文化の影響について考察し、一貫性のある視点、コンセプトを作品に内在させること。

森山 知己 (日本画)

作品内容の深化に加え、自身の思考の論理性、説得力、作画における魅力等に注目し再確認する。

修士課程の集大成として、今後の作家活動に繋がる修了作品の完成を目指す。

田丸稔 (彫刻)

自身の制作過程、存在の過程に根ざした独創的な彫刻表現への足がかりを獲得すること。

また、それら考察、制作の過程を記録し、既にある表現の営みと照らし合わせることで、自らの制作の定義を試みること。

近藤 千晶（絵画）

- ①西洋画制作研究で模索してきたコンセプトや表現方法を客観的に分析することができる。
- ②作品をさらに展開、発展させ、自らの独創的な絵画表現を完成させることができる。

磯谷 晴弘（ガラス）

存在の過程に根ざした現代的な制作表現の知識を獲得すること。
また、それらを独自の視点から考察し、社会的評価に耐え得る作品の完成を目指す。

評価方法

五十嵐 英之（油彩画／版画）

修了制作作品 70% 研究報告書 30%

川上 幸之介（現代アート）

・作品 50% 研究調査資料 50%

森山 知己（日本画）

修了作品 60% 学内外での発表（個展・展覧会出品など）・研究の様子（取り組み）・状況 40%

田丸 稔

修了作品 60%、学外での作品の発表、制作研究の取り組み姿勢等 40%

近藤 千晶（絵画）

修了作品（②）60% 学外での発表や研究内容（①）40%

磯谷 晴弘（ガラス）

修了作品70%、制作研究報告書30%

注意事項

五十嵐 英之（油彩画／版画）

特になし

川上 幸之介（現代アート）

特になし

森山 知己（日本画）

展覧会や美術館の鑑賞などを行う場合がある。必要に応じて個別の課題を出す場合がある。

田丸 稔（彫刻）

授業外学習の成果などについて、レポートの提出を求められることがある。

近藤 千晶（絵画）

特になし

磯谷 晴弘（ガラス）

特になし

授業計画

五十嵐 英之（油彩画／版画）

コンセプトの確認1,2,3、油彩画／版画等の技法分析1,2,3、作品の講評、修了制作作品の展示計画1,2,3、修了制作作品展完成・講評1,2,3。

川上 幸之介（現代アート）

学生個人に合わせて授業展開を行います。

森山 知己（日本画）

4月 年間スケジュールの確認。
5月 制作内容・プランに関する検討・相談
7月 作品制作経過報告 メール等で相談・助言指導を行う
9月 作品制作プレゼンテーション
制作プランに対する助言
11月 制作中間報告 助言指導
1月 制作プレゼンテーション
完成・講評
(個展開催・展覧会出品などに関してはその都度、助言指導を行う)

田丸 稔

4月 年間スケジュール制作計画作成確認
6月 進捗状況の確認
7月 夏季休暇前の進捗状況確認
9月 後期スケジュールの確認、進捗状況確認
11月 完成に向けた進捗状況の確認
1月 完成、発表に向けた修正、校正作業等

近藤 千晶 (絵画)

4月 修了制作に向けて年間スケジュール作成、確認
5月 修了制作内容・プランに関する検討・相談
7月 夏季休暇前経過確認
9月 後期スケジュールの確認、経過確認
11月 完成に向けた経過確認
1月 完成、講評
(詳細は個別に対応)

磯谷 晴弘 (ガラス)

4月 年間スケジュール制作計画作成確認
5月 制作に関連するテーマや方法論の確認
7月 夏季休暇前の進捗状況確認
9月 後期スケジュールの確認、進捗状況確認
11月 制作と報告書の関連性の確認
1月 完成、発表に向けた修正、報告書の訂正作業等

授業外学習

五十嵐 英之 (油彩画/版画)

作品制作に関係する作品が出品された展覧会の鑑賞と資料作成。
個展等の展覧会の開催。

川上 幸之介 (現代アート)

授業で示されたキュレーターがキュレーションをした国際展を中心として調査、研究をすること。

森山 知己 (日本画)

個展開催、展覧会出品、コンクール出品など、積極的に作品の発表を行う。

田丸 稔

全国規模の公募展、コンクール等への出品、発表を行うこと。

近藤 千晶 (絵画)

個展開催、展覧会、コンクール出品など学外発表を行う。

磯谷 晴弘 (ガラス)

全国規模の公募展、コンクール等への出品、発表を行うこと。

教科書

五十嵐 英之（油彩画／版画）

なし

川上 幸之介（現代アート）

なし

森山 知己（日本画）

使用しない。

田丸 稔（彫刻）

適宜指示時する。

近藤 千晶（絵画）

使用しない。

磯谷 晴弘（ガラス）

使用しない。

参考書

五十嵐 英之（油彩画／版画）

資料は適宜、パワーポイント及び配布資料で提示する。

川上 幸之介（現代アート）

・参考資料はプリントし、配布する。また、国際展や現代アートの解説の際には、プロジェクターやモニターを用いる。

森山 知己（日本画）

参考文献は課題、各自の興味関心に合わせて適宜紹介する。

田丸 稔（彫刻）

適宜指示時する。

近藤 千晶（絵画）

個別に適宜紹介する。

磯谷 晴弘（ガラス）

適宜指示する。

備考